

経営倫理（2018年度）シラバス 担当：國部克彦

<目的>

本講義は、神戸大学経営学研究科の教員の最先端の研究成果に基づいて、MBA教育用にアレンジした科目群のひとつである。したがって、通常の経営倫理の知識を提供することを目的とするのではなく、それを前提としたうえで、最も根本的なレベルでの経営倫理の考え方を学ぶことを目的とする。本講義では、企業の倫理(business ethics)ではなく、経営に関与する人間の倫理(management ethics)という観点から、経済のロジックを超えた地点にある倫理を企業活動の中に反映させるためには何が必要なのかを、アカウンタビリティとレスポンスビリティの概念を軸に議論する。

<テキスト>

①國部克彦『アカウンタビリティから経営倫理へー経済を超えるために』有斐閣, 2017年

<参考書>

②國部克彦・神戸CSR研究会『CSRの基礎』中央経済社, 2017年

③高巖『ビジネスエシックス[企業倫理]』日本経済新聞出版社, 2013年

<評価方法> (合計：60点以上を合格とする)

①事前課題レポート : 10点×4回

②事後課題レポート : 60点(事前課題レポートを改訂し、全体にテーマをつけて提出)

<事前課題レポートの提出の仕方>

4回の講義ごとの課題についてレポート(A4で1枚, 1000字程度)を作成し、授業前に提出する。その後、このレポートを中心に議論するので、自分用に1枚コピーをとっておくこと。2月1日までの間は締切期日後も授業中に受け取るが評価は最高6点とする。

<事後課題>

4回の事前課題レポートを改定し、全体を一貫した視点でまとめたうえで、レポートにタイトルをつけて提出する。加筆は自由に行ってよい。分量はA4で6枚程度(6000字程度)。単に4つの事前レポートを合体しただけのものでは評価に値しない。

締切日時：3月2日(土) 17時 教務係レポートボックスへ投函

<講義の進め方>

- テキスト(できれば参考書も)の該当箇所を事前学習したうえで事前課題に取り組み、講義に臨むこと
- 原則として、講義(90分)、ディスカッション(90分)の配分で進める
- 講義時にレスポンスカードを配布するので、講義に対する意見を戻すこと

<各講義の概要>

第1講 公共性（テキスト1章）（1月11日）

ビジネスにおける倫理問題はすべて経済と人間の関係から生じていることを、アーレントの公共性理論を導きの糸として学ぶ。経済がどのようにして社会を支配しているのかについて、経済の表現形式である会計の観点を意識して議論し、経済に対して人間を回復させる根拠としての経営倫理の役割を議論する。

事前課題：あなたの所属する組織で、私的な問題と公共的な問題が対立するのは、どのような時か。その問題を、アーレントの公共性の視点から考えよ。

第2講 責任（テキスト2章）（1月18日）

ビジネスの世界における責任あるいは正義とはいかにあるべきか。なぜ不祥事はいつまでたってもなくなるのか。これは個人の問題ではなく制度の問題であることを理解して、有限の責任／アカウンタビリティを、組織のレベルでも、企業のレベルでも、無限の責任／アカウンタビリティへと転換することが可能かどうかを議論する。

事前課題：あなたの所属する組織で、あなたの責任は文書などで規定されているか、それともそれを超えるものか。実際に自分が抱えている責任問題を、デリダの無限責任の観点から論じ、無限責任のレベルに転換できるとすればどのようなことか考えよ。

第3講 評価（テキスト3, 4章）（1月25日）

無限の責任／アカウンタビリティを実行するためには、有限の目標を複数化する必要がある。そのための複数評価原理の会計として、MFCA, GRI スタンダード, IIRC フレームワークなどを取り上げてその可能性を議論する。さらに、フィードバックプロセスの必要性についても検討する。

事前課題：あなたの組織の業績評価制度を、テキストで考えるような複数評価原理に変革するには何が必要か。現状を説明したうえで、考えられる可能性を示せ。すでに複数評価原理となっていると考える場合は、その意義と限界を説明せよ。

第4講 倫理（テキスト5章）（2月1日）

これまでの3つの講義で議論してきた理論と手法・制度を実践することで、倫理が構築されることを議論する。具体的な実践として、SDGs やステークホルダーエンゲージメントなどを取り上げて、主にCSR実践を通じて経営倫理が構築されるプロセスを考える。CSRのこれまでの発展過程を振り返り、その可能性についても検討する。

事前課題：あなたが勤める企業において「実践としての経営倫理」として認識できる事象（1つでも複数でも可）を取り上げ、その内容と可能性を論じよ。

<講義担当者連絡先> kokubu@kobe-u.ac.jp